

5M-4

仕様書エディタ (spec) の改良

伊藤 俊之、堀川 博史、高野 彰

三菱電機 (株) 情報電子研究所

1. はじめに

筆者らは過去に仕様書作成を支援するものとして仕様書エディタ [1] (spec: SPECification editor) を作成してきた。これは、ガイダンス機能 (記述内容に対するガイダンス)、定型句自動入力機能 (表題等の定型句の自動入力)、自動複写機能 (文書中の同一記述の自動複写) 等を用いて仕様書作成を支援するものである。specは仕様書作成の初心者や全く別の様式の仕様書を作成する時には効果を発揮するが、過去に作成した文書の参照、引用機能がないため似たような種類の仕様書を作成する時に問題があった。今回specに他文書の参照、引用機能を実現したのでそれを報告する。

2. 他文書引用機能

specでは、文章を章、節、項等の論理構造と呼ばれる単位で扱っている。仕様書などの定型文書は、同一の論理構造をしている。他文書の引用もこの論理構造を用いて行なう。ある定型文書に対して、章、節、項といった文書の枠組となるものを用意し、その中に複数の他文書を持つという形を用いる。(図2. 1)

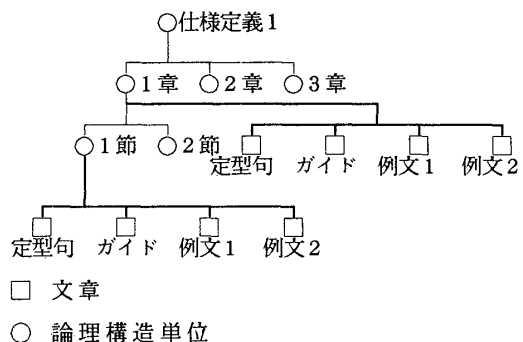


図2. 1 仕様書構造

すなわちspecでの複写機能は、章、節、項等の論理構造単位に行なうことができる。もちろん章、節、項だけではなく段落単位まで論理構造を規定すれば、段落単位の複写も可能になる。

次にspecの動作について述べる。specは、上で述べた仕様書構造を元に作動する。指定された仕様書構造を見て論理構造単位ごと順番に処理を行なう。各論理構造単位では定型句を複写し、ガイドメッセージを表示する。次にその論理構造単位に属する例文候補を表示する。ユーザが例文を指定することにより指定された例文が表示される。複写を指定すれば例文が新規文書に複写される。また、別の例文を指定すればその例文が表示される。このような操作を論理構造単位ごとに順番に繰り返すことによって仕様書を作成していく。例えば図2. 1で1章を作成する場合、1章の下の定型句を複写し、ガイドによりガイドメッセージを表示する。例文1と例文2を候補として表示する。例文1が選択されれば、例文1の内容を表示する。ここで複写が選択されれば、例文1の内容を複写し、次の論理構造単位である1節の処理を行なう。

3. おわりに

仕様書作成において過去の仕様書を参照して新たな仕様書を作成することはよくあることである。ここでは参照、複写する文章をを章、節、項といった論理構造単位で管理することにより、論理構造単位で文章の複写を行なうことができる機能を実現した。

参考文献

[1] 堀川他：仕様書エディタspecの評価
第35回情処全大, 3Z-2, 1987